/

（様式 3）

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	青山　謙二郎	所属	同志社大学心理学部
研究会等名称	第 27 回行動数理研究会		
成果概要	1）参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 会員　　16 名（うち認定心理士　1 名） 非会員　12 名（うち認定心理士　0 名） 2）集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください） 集会の目的：行動の数理的・定量的分析に関心を持つ研究者間の情報交換と研究の促進を目的として、年 1 回研究集会を開催している。集会では、研究方法のテクニックや他の研究分野に関する知識を解説する教育セッションと一般の研究発表という構成で研究会を実施している。今年は、1 件の教育セッションと 3 件の研究発表が行われた。 実施内容： 日時　2019 年 9 月 14 日（土）11 時 00 分より 16 時 20 分まで 場所　立命館大学　大阪いばらきキャンパス B 棟 5 階 B515 室 プログラム： 研究発表 11：10－12：00　鎌田 泰輔（同志社大学） 『数秒範囲の時間評価における背側線条体の因果的役割』 13：20－14：10　山田 航太（慶應義塾大学） 『強化学習によるバウト構造のシミュレーション』 14：10－15：00　八賀 洋介（早稲田大学） 『マッチングペニーゲーム下の選択行動の種間比較についてのマッチングによる分析』 15：20－16：10　Andy Lattal（West Virginia University） 『What *IS* Resurgence, Anyway?』 成果・将来計画：教育セッションでは、一度消去された反応が、他の反応の消去によって復活する resurgence について、この現象が単なる消去ではないこと、行動履歴の結果であること、スケジュールの相互作用効果である可能性等が指摘された。研究発表は、ラットにおける時間評価の神経生理学的要因の検討、強化学習事態における反応のバウト構造という観点からのモデル化、マッチングペニー課題における選択行動のマッチング分析といった、多様なテーマについての研究発表が行われた。いずれの研究発表も、行動データの定量的分析を通して行動の記述や予測を目指すものであり、今後の発展が大いに期待される内容であった。参加人数は 28 名であり、質疑応答も活発になされた。今後とも、行動の定量的研究に関心を持つ研究者のニーズを捉えた、自由な議論が展開できる研究集会を目指していきたい。		

（様式4）

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉

第27回行動数理研究会

研究集会開催日：　2019年　9月　14日（土）

	氏名	所属	会員	認定心理士
1	青山　謙二郎	同志社大学	○	○
2	井垣　竹晴	流通経済大学	○	
3	佐伯　大輔	大阪市立大学	○	
4	山岸　直基	流通経済大学	○	
5	平岡　恭一	弘前医療福祉大学短期大学部	○	
6	大河内　浩人	大阪教育大学	○	
7	中鹿　直樹	立命館大学	○	
8	石井　拓	和歌山県立医科大学	○	
9	丹野　貴行	明星大学	○	
10	吉岡　昌子	愛知大学	○	
11	八賀　洋介	早稲田大学	○	
12	空間　美智子	京都ノートルダム女子大学	○	
13	鎌田　泰輔	同志社大学	○	
14	中村　敏	大阪市立大学	○	
15	片山　綾	大阪市立大学	○	
16	長谷川　依保	関西学院大学	○	
17	神前　裕	早稲田大学		
18	黒田　敏数	愛知文教大学		
19	藤巻　峻	早稲田大学		
20	山田　航太	慶応義塾大学		
21	飛田　伊都子	滋慶医療科学大学院大学		
22	峯尾　千恵	滋慶医療科学大学院大学		
23	辻　いづみ	滋慶医療科学大学院大学		
24	岸村　厚志	大阪市立大学		
25	池田　正樹	大阪市立大学		
26	畑　佑美	大阪市立大学		
27	高山 仁志	立命館大学		
28	内田　善久	奈良大学（非常勤）		

（様式5）

2020年　3月　18日

日本心理学会研究会　　2019　年度会計報告書

研究会名称　公益社団法人日本心理学会 行動数理研究会

研究会番号　研17010

助成金額　¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2019年9月14日	講師謝礼	¥40,000
	支出合計	¥40,000